Pharmacist Road

民医連

いつでも、どこでも、だれもが安心して
良い医療と福祉を受けられるために

第８号
発行日　2010.10.18
発行元　宮城民医連薬学生委員会
荒井正美・高橋雅人・遠藤智美・稲葉信二
田所佑美子・高橋智子・佐藤貴紀・佐藤友彦

こんにちは!!「統計を取り始めてから１番暑い」と言われた夏も終わり、一気に秋らしい毎日になりました。後期の授業、実務実習第２期も始まり、忙しい毎日を送っていることと思います。Pharmacist Road Vol.８をお送りします。

薬学生の集い

９月４日(土)つばさ薬局長町店で恒例となった「**薬学生の集い**」が行われました。今回は『**地域における患者様の現状、無料・低額診療について**』というテーマで、長町病院の※ソーシャルワーカー袴田智子さんからのお話を聞く学習講演を行いました。ここ数回の薬学生の集いでは、服薬指導、薬歴簿の記入、栄養のことなど、主に薬剤師としての知識やスキルを身につける学習が多かったのですが、今回は将来、薬剤師になる上で「病院、薬局の周りの地域の患者さまに、今どんなことが起こっているのか?」ということを知ってもらいたいと思い、このような学習会を企画しました。

※ソーシャルワーカー
患者さまの経済的、心理的、社会的問題や、社会復帰などについて援助・協力すると共に、治療計画の支援や連携などを社会福祉の立場から担当し、療養生活の安定を図っていく専門家

講師の長町病院 SW
袴田智子さん

実感は少ないかもしれませんが、日本では今「**貧困**」が大きな問題になっています。実は、なんと日本は「相対的貧困率」が世界第２位です。

また、「格差社会」という言葉もよく聞かれるように「**格差**」も問題になっています。総世帯数の 1.5%しかいない「富裕層」で、個人金融資産の 20.7%を占めています。

「**ワーキングプア**」という言葉も耳にしたことがあると思います。政府の政策で非正規労働者(パート、アルバイト、派遣労働)が増加、正社員と同じようにフルタイムで働いても、生活保護基準以下の賃金しか得られない人が増えて来ています。日本には、年収 200 万円以下の人が 1099 万人もいるのです。実に労働者の４人に１人が働いても生活が成り立たないというのが現実です。

奨学生、実習生を中心に多くの方が参加してくれました。

そんな中で、保険料や医療費の自己負担額は国・自治体の財政難を理由にどんどん高くなっていて、それらを支払うことが出来ずに、病気を抱えていても、病院にかかれない方がたくさんいます。また、そういった方を救う「**セーフティーネット**」になるはずの生活保護も、申請をなかなか受理してくれないなど、他の先進諸国と比べて、日本は制度を活用しにくくなっています。保護を受けられなかったり、強制的な保護打ち切りなどで、北九州市では３年連続で餓死者が出てしまうなど、悲しい事件も起こっています。

SW は生活保護申請の手助けをしたり、仮に生活保護に該当しなくても「医療だけは受けられるように」自治体にかけあったりしています。それによって治療を受けていただき、仕事などの生活を立て直せるように支援をしています。

坂総合病院では、国の認可を得て、医療費を支払えない方でも医療が受けられる「**無料・低額診療事業**」に取り組んでいます。一定の基準を設けて、該当する方に手続きをしていただくことで、最大６ヶ月間、医療費の自己負担を免除・減額できる制度です(減免した分は病院の負担になります)。2009 年度で 183 名の方がこの制度を利用し、とりあえずお金の心配をすることなく診療を受けていただくことができました。しかし、宮城県内では坂総合病院を含め、2 施設でしかこの制度を採用していません。まだまだ誰もが受けられる制度になっていないのが現実です。これからもっと力を入れて取り組んではいかなくてはいけない大きな問題です。

～最後に参加してくれた学生さんの感想を紹介します～

- 普段、貧困について考えることがなく、現状を知る機会がない中で、今回の話はとても貴重に感じた。
- ソーシャルワーカーの仕事を知ることが出来て良い機会になった。
- 実習で「お金がなく受診を控えている例」を聞いたが、今回は更に現状を知ることが出来た。
- 日本の貧困の現状がこんなに酷いとは思ってもいなかった。
- 生活保護は申請しても受け付けてもらえないとは聞いたことはあったが、まさかここまで医療を受けられなくなるほどとは…。
- 貧困で困っている人が実際に自分の周りにいるということを、以前よりも身近に感じた。
- 無料低額診療を初めて聞いた。自分の住む地域の医療に関心を持とうと思った。
- 「お金がないから病院に行けない」ということはあってはならないと思う。
- 無料低額診療を行う病院が増えないものか。自治体がそのような取り組みに参加してくれないのか。
- 服薬指導する上で、経済状況も重要なのだと知り、薬剤師の役割の深さを感じることが出来た。
- 将来、医療従事者になる者として、見過ごしてはいけない問題だと思った。
- もっといろいろなことに目を向け、少しでも弱い立場の方の力になれるようにしたい。

この後、「**宮城民医連薬剤部会ミニ集談会**」が開催され、学生のみなさんにはそちらにも参加してもらいました。集談会の中で発表された演題の紹介など、次号でお伝えします。

高校生のための 薬剤師１日体験

７月３１日(土)につばさ薬局長町店と長町病院で「高校生のための薬剤師１日体験」が行われました。当日は、仙台南、仙台一、泉館山、宮城一、古川黎明、宮城学院、聖和の各高校から合計 15 名の多くの高校生の方が参加してくれました。その様子をご紹介します。

長町病院の薬局で、薬局の説明、薬剤師の役割、医師や他職種との連携、電子カルテ、などの説明を聞いてもらいました。

病院内の見学では、診察時間外だったので患者さんは少なかったですが、雰囲気は感じてもらえたと思います。

つばさ薬局では小グループに別れて調剤体験。薬剤師から基本的な事項などについて説明がありました。今回は模擬処方箋を基に調剤しました。

粉薬を調剤中。小児用の薬が多く、微妙な量を電子秤で正確に測ります。

シロップ剤を調剤中。飲みやすいように容器に自分で目盛りをつけたりもします。

処方箋がなくても買える薬(一般薬・OTC 薬)について説明を聞いているところです。安全に薬を使っていただくためにも薬剤師の役割は重要です。

軟膏剤を調剤中。容器にきれいに詰めるためには技術が必要です。

他にも、カウンターに立って、患者様役に向けて実際にお薬の説明をする体験も行いました。「**自分で分かっていることでも、人にわかりやすく説明するのは難しい**」「**薬剤師は薬を作るだけじゃないことを知った**」などの感想が聞かれました。さらに薬剤師の他に、現役の薬学生であるつばさ薬局奨学生２名も参加。彼らから大学での授業や、高校時代の勉強の話を聞いたりと盛りだくさんな１日体験になったと思います。

全体を通しての感想では「**薬剤師の仕事が知れて身近に感じるようになった**」「**普段は見られない部分が見られて楽しかった**」「**薬の種類の多さ、薬剤師の知識の量に驚いた**」「**薬剤師になりたいという気持ちがますます強くなった**」などを寄せてくれました。

参加してくれた皆さん、どうもありがとうございました。この日の１日体験に参加してくれた皆さんの中から、将来、１人でも多くの薬剤師が誕生することを職員一同願っています。

青森・宮城民医連合同 薬学生のつどい

８月２０日(金)～２１日(土)、岩手県花巻温泉で青森・宮城両民医連の奨学生が集まって「薬学生のつどい」が開催されました。２つの県合同で行う初めての企画でしたが、とても充実したものになりました。

シオノギ製薬金ヶ崎工場を見学

「医療連携」についてのグループワーク。病院薬剤師、薬局薬剤師、訪問看護師、患者家族役を与えられ、患者様が抱える問題点を話し合い。

各グループ毎に導きだした問題点と解決策をまとめて発表しました。

最後に、参加した宮城、青森の奨学生、薬剤師全員で記念撮影。「楽しかった!!」「仲良くなれて良かった」「来年もまたやりたいなぁ」という声が多数聞かれました。

夜はみんなで花火!!

薬害「スモン」「エイズ」「サリドマイド」についての講義を聞きました。

講義で学んだことを、グループ毎にクイズを作成して他のグループに向けて出題。ポイント制で勝敗を争いました。